



シリーズ

武雄の治水

vol.25

～水と共に生きるまちへ～

今回のテーマは

高橋排水機場

令和3年度から行われていた高橋排水機場の増強工事が完了しました。今回は、その工事内容等について紹介します。

どんな施設？

朝日町高橋地区周辺の内水被害の軽減を目的として、平成9年に完成した排水能力50m³/秒の中内で最大の排水能力を有する排水機場です。

大雨で高橋川と甘久川から武雄川への自然排水が困難となった時に、排水機場のポンプで強制的に排水します。

▼平成2年7月 朝日農協周辺(当時)



国土交通省武雄河川事務所により管理されています。▶



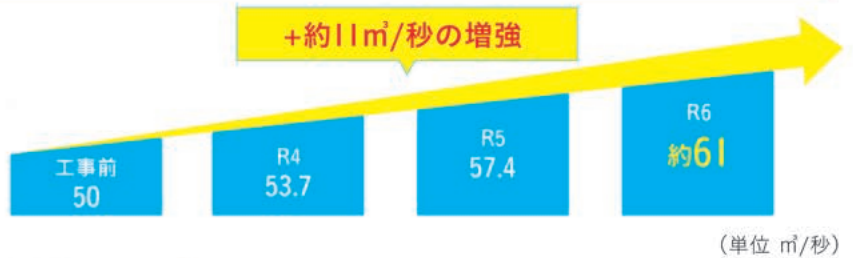
今回はどんな工事が行われたの？

六角川水系では、河川激甚災害対策特別緊急事業が採択され、高橋排水機場の排水能力を50m³/秒から約61m³/秒に増強する工事等が行われました。



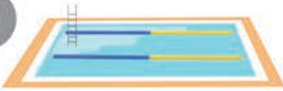
▲増強工事完了後の排水機場内部。ポンプが3台設置されています。

令和3年度から段階的に工事が進められ令和6年3月に全ての工事が完了



毎秒約61m³の排水能力ってどれくらい？

例



武雄中学校のプール
約540m³

3台のポンプを稼働させると…
8～9秒で空にできる能力

今回の工事で、国土交通省が所管する排水機場では九州最大の排水能力となりました。工事完了により、高橋地区周辺の内水被害の軽減が期待されます。



▲排水機場のしくみ

NEWS

六角川流域水害対策計画骨子案がまとまりました

└ 計画の主な内容や骨組みのこと。

2月19日(月)に、第2回六角川流域水害対策協議会が開催されました。この協議会は、昨年3月に六角川上流域が特定都市河川に指定されたことにより発足したものです。

会議では、六角川流域水害対策計画の骨子案が示されました。今後は、地域の皆さんの意見なども踏まえながら、市のまちづくりと合わせた治水対策を地域ごとに検討していきます。計画は、令和7年3月策定を目標にしています。

骨子案のポイント

- ☑ 浸水被害対策の重点整備地区として、橘地区、朝日地区、北方地区の3地区が示されました。
- ☑ 重点整備地区3地区において、最大で580万m³の貯留対策が必要と試算されました。
- ☑ ため池などの既存施設の活用強化、新たな貯留施設の整備、土地利用のルールづくりや住まい方の工夫などによる水災害対策を行っていくという方向性が確認されました。



▲骨子案

詳しくは まちづくり部 治水対策課 ☎0954-27-7097

シリーズ武雄の治水 バックナンバーはこちらから▶

